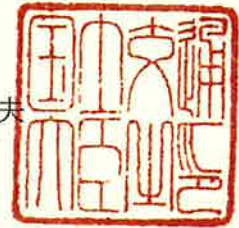


認 定 書

国住参建第 2921 号
令和 4 年 11 月 8 日

日鉄建材株式会社
代表取締役社長 中川 智章 様

国土交通大臣 齊藤 鉄夫



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：2 時間（第一号）、1 時間（第二号））の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP120FL-0243
2. 認定をした構造方法等の名称
軽量コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名
軽量コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ）

2. 荷重及び支持間隔
 ・床の支持間隔：3,400 mm 以下の場合
 自重を含めた全荷重：8.44kN/m² 以下
 注）全荷重＝固定荷重＋積載荷重
 ・支持条件は連続支持又は単純支持とする。

3. 材料構成等

項 目	製 品 仕 様
床版	デッキプレート 規格：JIS G 3352 (デッキプレート) 鋼板の種類：SDP1T、SDP1TG、SDP2、SDP2G、SDP3 鋼板の厚さ (mm)：1.0～1.6 （SDP1T、SDP1TG の場合、1.2～1.6） 山高さ (mm)：75±1.5 働き幅 (mm)：600+8, -2、300+8, -2 形状及び寸法：4. 構造説明図参照 コンクリート 規格：レディーミクストコンクリート (JIS A 5308) 種類及び呼び強度 (N/mm ²)：軽量コンクリート (呼び強度：18～45) 厚さ (mm)：80 以上 (デッキプレートの山上からの厚さ) 床版の総厚 (mm)：155 以上 支持条件：単純支持又は連続支持
ひび割れ拡大防止用鉄筋等	仕様：①もしくは②のいずれかとする。 ①溶接金網 規格：JIS G 3551 線径 (mm)：6 以上 間隔 (mm)：100 以下×100 以下 かぶり厚さ (mm)：30 以上 (コンクリート上面から) ②鉄筋 (異形鉄筋) 材料名及び規格：(1) もしくは (2) のいずれかとする。 (1) 鉄筋コンクリート用棒鋼 (JIS G 3112) (2) 鉄筋コンクリート用再生棒鋼 (JIS G 3117) 直径 (mm)：D10 以上 配筋間隔 (mm)：200 以下×200 以下 かぶり厚さ (mm)：30 以上 (コンクリート上面から)
スパーサー (ひび割れ拡大防止用鉄筋用)	種類：①もしくは②のいずれかとする。 ①鉄線 線径 (mm)：5 以上 (規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径以上) 配置間隔 (mm)：1,000 以下 ②セメントモルタルブロック 寸法：規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上 配置間隔 (mm)：1,000 以下

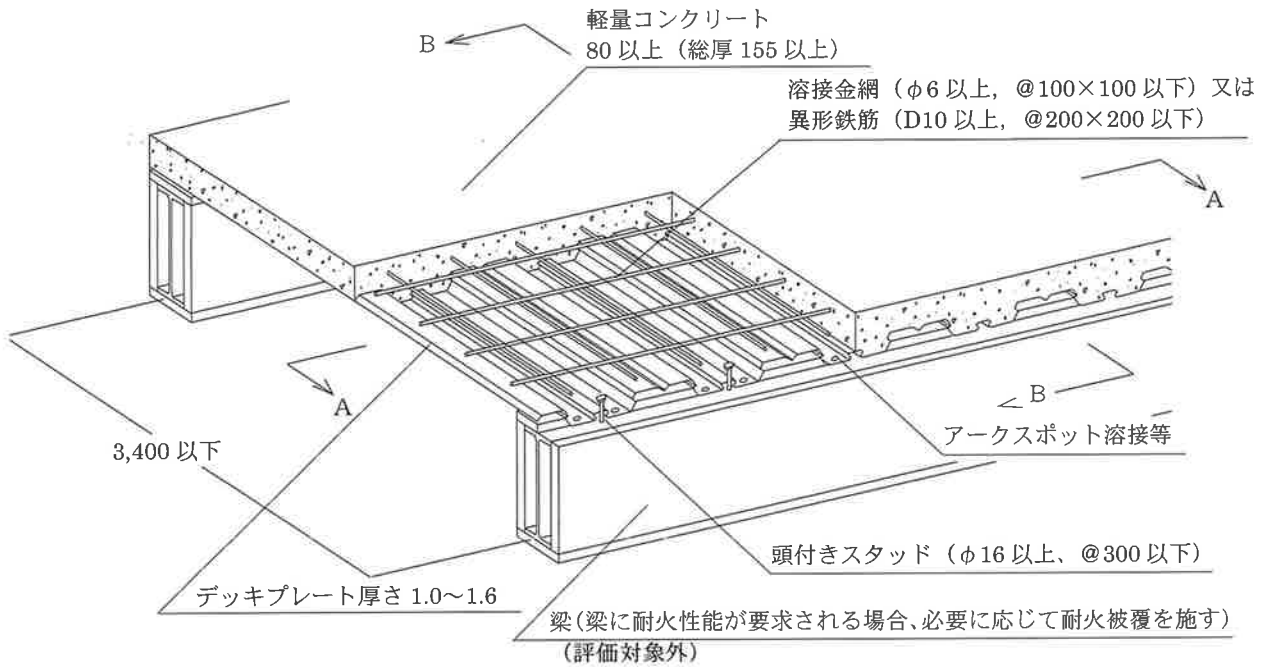
項 目	製 品 仕 様
接合方法	はりと床版の接合 仕様：頭付きスタッド 規格：JIS B 1198 寸法 (mm)：φ16 以上 留め付け間隔 (mm)：300 以下 はりとデッキプレートの接合 仕様：①～⑤のいずれかとする。 ①アークスポット溶接 ②すみ肉溶接 ③焼抜き栓溶接 ④プラグ溶接 ⑤打込みびょう はりとデッキプレート端部のかかり代 (mm)：50 (-10) 以上

4. 構造説明図

(1) 透視図

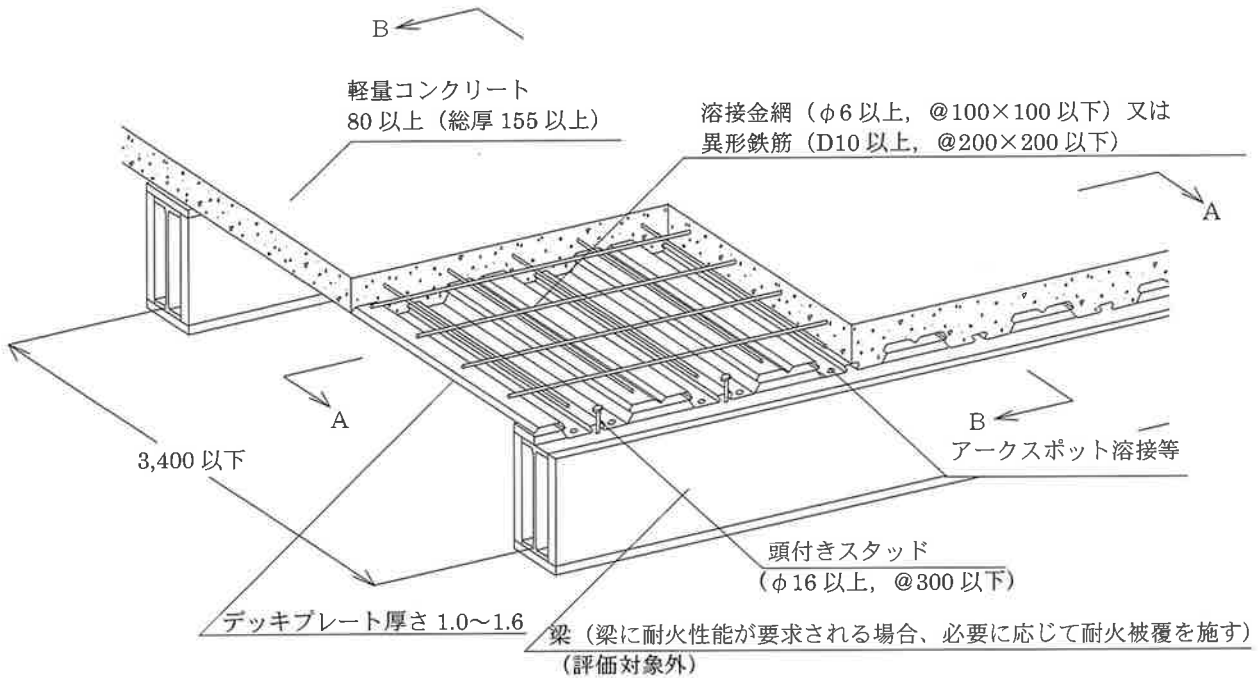
(1) - 1 デッキプレートが単純支持の場合

(単位：mm)



(1) - 2 デッキプレートが連続支持の場合

(単位：mm)

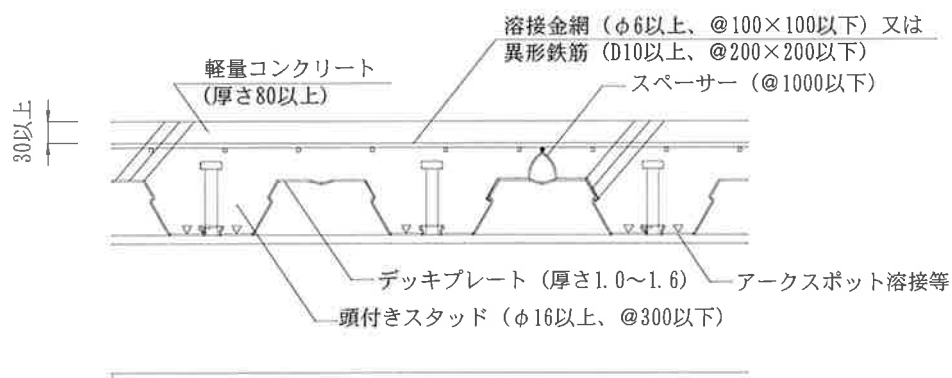


(2) 断面図

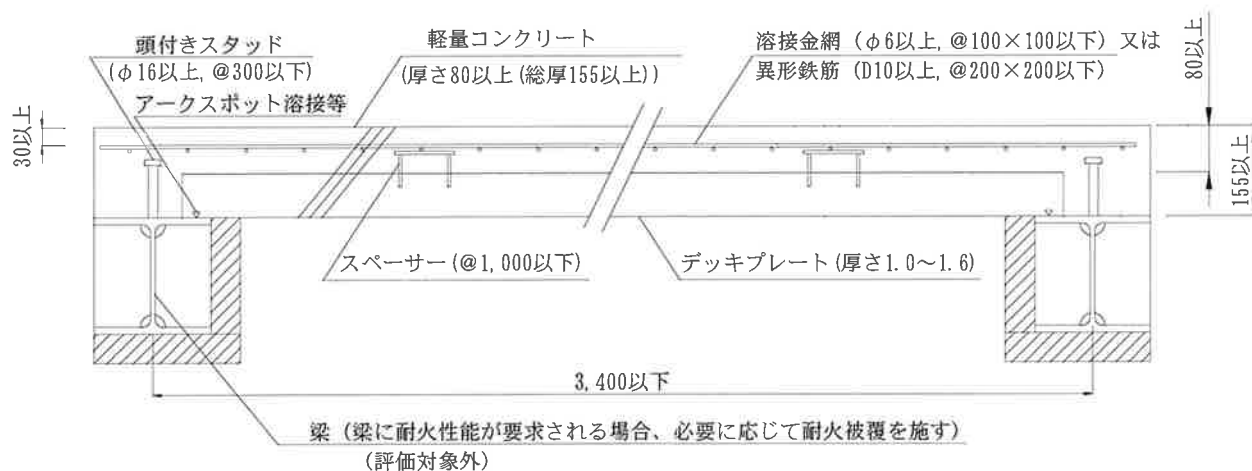
(2) - 1 デッキプレートが単純支持の場合

(単位：mm)

i) A-A断面図



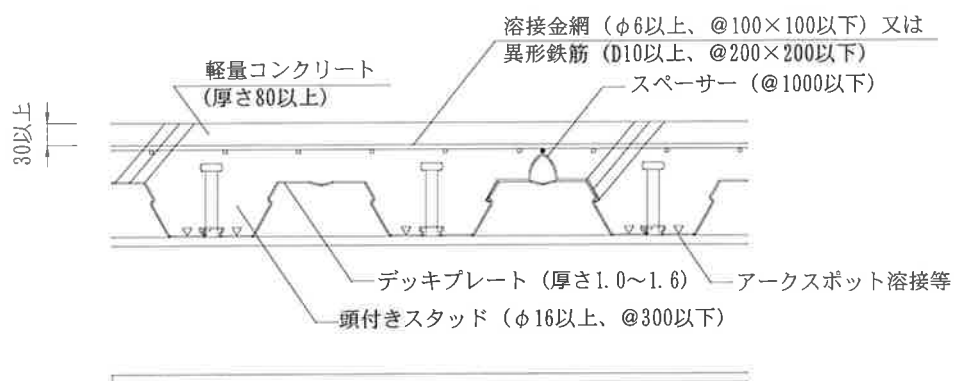
ii) B-B断面図



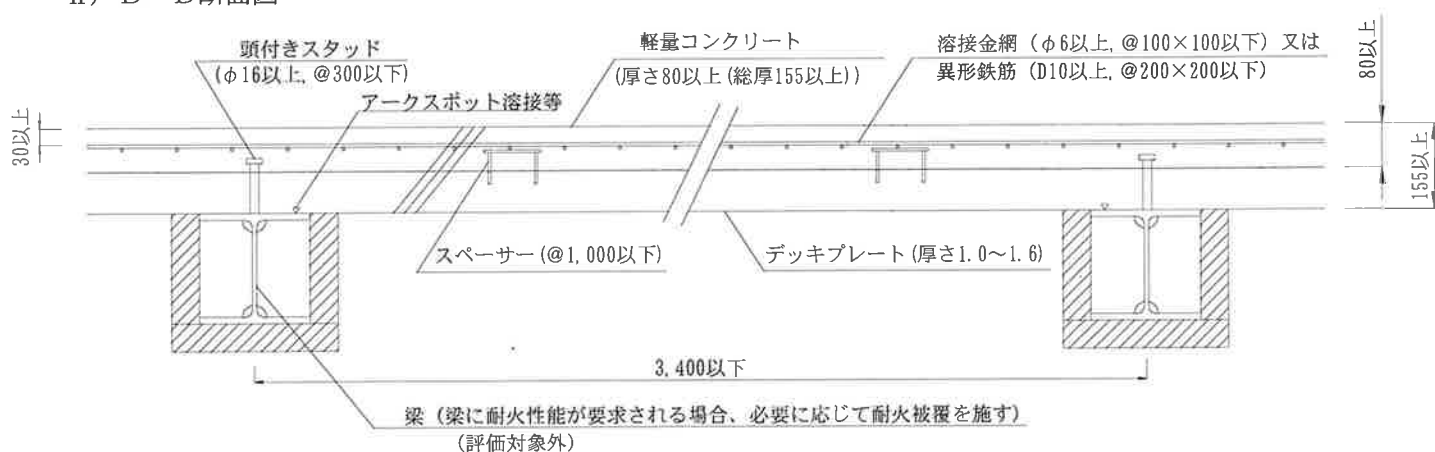
(2) - 2 デッキプレートが連続支持の場合

(単位：mm)

i) A-A断面図

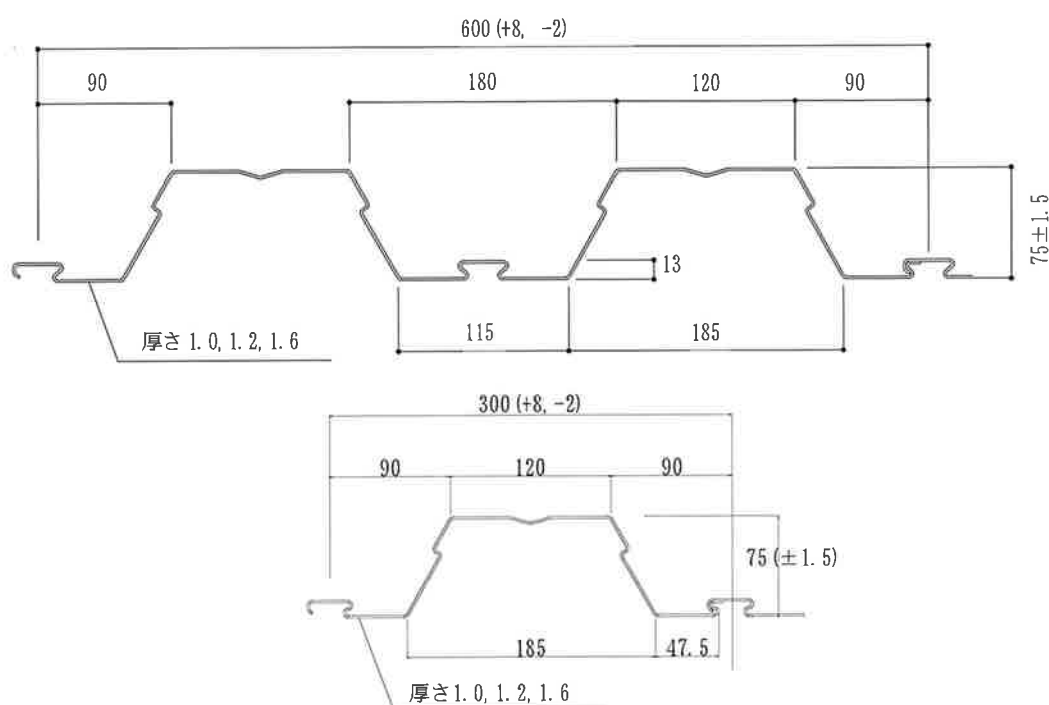


ii) B-B断面図



(3) デッキプレートの形状及び寸法

(単位：mm)



5. 施工方法

(1) デッキプレートの敷込み

デッキプレートを設置する梁芯相互の間隔が 3,400 mm 以下であることを確認する。デッキプレートを墨出し線に合わせて梁に配置する。デッキプレートの端部と梁とのかかり代は 50 mm 以上とし、この両者をアークスポット溶接等で仮止めする。

(2) 梁とデッキプレートあるいは床版との接合

梁とデッキプレートあるいは床版とは、頭付きスタッドにより接合する。

頭付きスタッドの接合方法は、平成 14 年国土交通省告示第 326 号の規定または「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」（日本建築学会）もしくは「各種合成構造設計指針・同解説」（日本建築学会）によるものとする。

(3) デッキプレートの長さ方向相互の接合

デッキプレートの長さ方向相互は嵌合により接合する。必要に応じて、その嵌合部を溶接、ねじ等で固定する。

(4) デッキプレートの小口処理

必要に応じて、デッキプレートの山部の小口を鋼板等で塞ぐ。

(5) ひび割れ拡大防止用鉄筋の配置

溶接金網または異形鉄筋は、スペーサー（配置間隔 1,000mm 以下）を用いて、床版上面からのコンクリートのかぶり厚さが 30 mm 以上となるように床全面に敷き並べる。

溶接金網は、直径が 6mm 以上、網目間隔が 100×100mm 以下のものとする。異形鉄筋の直径は D10 以上とし、配筋間隔は縦及び横とも 200mm 以下とする。異形鉄筋の加工及び組み立ては、「建築工事標準仕様書・同解説 JASS 5 鉄筋コンクリート工事（日本建築学会）」（以下、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」という）に準拠する。

(6) コンクリートの打込み

コンクリートの打込みは、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。コンクリートは、補強材の移動によりかぶり厚さ不足が生じることのないように、また、所定厚さを確保するように不陸なく打込む。

(7) コンクリートの仕上げ

コンクリートの表面は金ごて等の仕上げを施す。

(8) コンクリートの養生

コンクリートの養生は、「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に準拠するが、初期には湿潤養生を行う。